論壇

東北インテリジェント・コスモス構想と交通

石田名香雄
前東北大学学長
インテリジェント・
コスモス研究機構社長

Transport and Tohoku Intelligent Cosmos Plan

Nakao ISHIDA
ex-President, Tohoku University
President, Intelligent Cosmos Research K.K.

昨年夏の甲子園での高校野球において、史上初めて真紅の大優勝旗が白河の関を越えるのではないかと、東北の人々を大いに沸かせた。残念ながらその夢は、準優勝という形で叶えられはしなかったものの、将来への期待を充分に抱かせるものであった。高校野球にかぎらず、東北は産業経済の面でも、他の地域に較べて遅れをとって来たことは事実である。しかし一方、12世紀において、平泉を中心として栄えた藤原文化は、豊富に産出された金と、馬や絹や海産物等の地場産品を大きな経済力としつつ花開いたもので、白河以北の東北の地に、中央政府の力の及ばない一大王国を築き上げたのである。往時の平泉は、人口10数万、京都に次ぐわが国第2の大都市であった。その名残りは、今でも中尊寺や毛越寺に見受けられるが、全盛時における堂塔の数は、百に近かったという。建築のダイヤモンドであると世界的に評価の高い金色堂もその一つであった。

その後約九百年、長い眠りから覚めて、今東北は、21世紀に向けての布石を打ち始めた。その一つが、インテリジェント・コスモス構想である。新しい時代の産業構造の構築に遅れをとった地域は、その時代から取り残されるという歴史的教訓を踏まえて、この構想は、『東北地方全体が、21世紀における日本の頭脳と産業開発の国際拠点となり、そこに未来型社会を形成することによって、人間と自然、産業と生活・文化が理想的に調和した地域社会を作る』ことを目標としている。未来型産業社会の形成とは、新しい技術革新に基づく先端技術型産業が先導し、これと共に、在来型地域産業や農林水産業が先端技術で再活性され、さらに新しい産業が経済社会の多様化を促進する重層的産業構造を持った地域社会を作ることを意味する。これらの根源となるものは、独創的研究開発であり、その実現に産学官が一体となって取り組もうとしている。すなわち、構想全体の母体となるインテリジェント・コスモス研究機構はすでに発足し、加えて、仙台には、加工米育種研究所、小電力高速通信研究所、アモルファス・電子デバイス研究所、釜石には、冷水性高級魚養殖技術研究所が研究開発会社として活動を行っている。さらに、山形に機能性ペプチド研究所、仙台に高度通信研究所が設立間近である。

さて、このように東北各地に研究開発拠点を設けながら、各地域の独自性を保ちつつ自律的に地域を発展させようとする姿は、秋空にそよぐコスモスの花にも似ている。個々の花は色とりどりに独立して風にそよいではいるが、細い茎から太い茎へとつながれ、全体としてはホロニックの状態で見事に調和している。この茎に相当するものが通信・情報ネットワークや交通ネットワークなのである。研究開発頭脳の交流は域内外にとどまらず国際交流へとつながる。高速交通網、国際交通拠点の形成は焦眉の急務である。また研究頭脳にとっては、静かで安全で美しい居住環境、快適な通勤や交流、手軽に行けるリゾート、楽しい町等は必須の条件である。何れも道路や交通の存在とあるべき姿がこれに大きくかかわり、21世紀社会を左右する重要な問題となっている。これ等の命題は東北だけにとどまらず、他地域も貫く、快適環境にかかわる普遍の原理へとつながるものであろう。

原稿受理　1990年2月8日